

子供が真似ても大丈夫？

30年間、教員生活を送ってきたが、新採の時、先輩にかけていただいた言葉が今も新鮮に残っている。その言葉を30年間実践してきたのだから。

新採時に勤務した小学校は、月・水・金曜日の週3回、職員朝礼があった。ある日の朝礼で伝達事項が多くあり、いつもより終了時刻が延びてしまった。子供たちが待っていると思い、急いで職員室を出て最後に教室につながる階段を駆け上がろうとした。階段には一段一段ゆっくり上がるベテランの女性教員。後に続くか、追い抜くかの迷いはあったが、子供たちの様子が心配な私は、階段を一段抜かしに上がり、横をすり抜けた。すると後ろから「階段は、一段一段上がるものですよ。」と私を呼び止める先輩の声。振り向いて「早く教室へ行きたいものですから。」と堂々と主張する私。そんな私をじっと見つめ、先輩は「子供は、いつもあなたを見てますよ。あなたの姿を子供は真似ますよ。」と諭すように話してくださった。

大学を出たばかりの私は日々の授業のことだけで頭がいっぱいで、自分の日々の話し方や表情、所作などが子供たちに大きな影響を与えることを全く意識していなかった。短くはあるが、先輩の言葉は「常に子供の手本となれ！」との教えであり、教員としての生き方を方向付けていただくきっかけとなった。

階段での出来事以後、私は服装や所作、そして、人との接し方など、常に子供に見られていることを意識し、子供の手本となるように努めてきたつもりである。30年前は「見られている自分」であったが、今は「見せている自分」がいる。ただ、時々、弱い自分が姿を現すことがある。そんなとき、いつも抛りどころとしていることは「子供が真似ても大丈夫？」である。